

## 2. ハタケシメジ栽培の試験研究と普及推進

栃木県林業センター 粕谷嘉信

栃木県では、平成8年度から試験研究を行ってきたハタケシメジについて、平成17年にハタケシメジ2品種についての品種登録出願と栽培技術に関する特許出願を行いました。

平成18年度からは、栽培希望者を募って普及推進を図ることとし、行政と一体となった取り組みを進めてきました。ハタケシメジ栽培には空調施設栽培と自然栽培の二つの方法がありますが、これまで、10～11月に発生させるための自然栽培を中心に取り組んできました。そこで、自然栽培を中心にこれまでの取り組みと問題点等について紹介します。

### 1 取り組みの内容

#### (1) 種菌の製造販売委託

種菌は、県内の種菌メーカーに種菌の製造及び販売を委託することとなりました。今年度については、普及推進のために種菌を安定供給する必要があることから、こうした方法を採用したものです。来年度については、利用権設定などによる手法も検討中です。

#### (2) 菌床の製造依頼

自然栽培は、菌床を土のなかに埋め込み、きのこを発生させる方法です。この方法による栽培希望者は、自前の菌床製造施設を持たないことが多く、菌床を入手するのが困難でした。そこで、県内の菌床栽培者数名に菌床の製造を依頼し、そこから菌床を購入できる仕組みを採りました。

#### (3) 栽培方法の指導

栽培方法の指導は、県内全域の栽培希望者を集めて当センターで栽培講習会を行ったほか、出先機関である林務事務所の要請に応じて、生産現場での指導も行いました。また、個別に来場される相談者に対しては、栽培環境等を聴取し、適した管理方法のアドバイスをしました。

### 2 栽培における問題点

#### (1) 培地調製時の作業性

本県で普及を進めている栽培方法では、剪定枝葉を原料とした堆肥を用います。この資材は、ほかの堆肥と同様に粘性が高いために、ミキサーから詰め機に培地を移す際に用いるチェーンコンベアに詰まるといったトラブルがありました。これについては、コンベアの構造を変更するか、培地資材の配合を改善するなどの適切な対処が必要であると思われます。

また、詰め機で培地を成型する際に、接種孔を開けるための棒の形状によっては、菌床から抜けづらいことがあり、スムーズな作業ができなくなるということもありました。

#### (2) 殺菌・接種・培養時における雑菌の発生

培地詰め以降の工程においてもトラブルがありました。堆肥自体が様々な微生物により分解された資材であることから、殺菌が不十分であると、菌床から雑菌がみられることがありました。また、殺菌後の接種又は培養の際に混入したと思われる雑菌の発生もありました。

#### (3) きのこと土の付着

自然栽培により発生させたきのこは、菌床の上面を被覆した土がきのこに付着し、商品とし

で売りづらいとの話もありました。

### 3 さらなる普及推進に向けて

こうした問題はあったものの、培養が完了した菌床からは、スムーズに発生したということで、テレビや新聞で報道されたほか、当センターにもよく発生したという報告がありました。売れ行きについても、直売所等を中心として好調だったようです。

これまでの取り組みから、改善すべき問題点が明らかになったものと思います。作業性や雑菌に関する上記のような問題は、個別の栽培施設の構造や栽培方法と密接に関係したものであり、研究施設内でこれまでに進めてきた試験研究の中では認識が不十分だったものもありました。したがって、さらなる普及推進を図るためには、現場での個別の問題に地道に取り組んでいくことが必要であると考えます。